

自然・文化・言葉から学ぶ沖縄フィールドワーク

2026年2月23日から26日にかけて、国語教育学ゼミ12名で沖縄県にてフィールドワークを実施しました。

23日は中部国際空港付近で前泊し、翌日からの行程に向けてゼミ生同士の親睦を深めました。

24日の朝に那覇空港へ向けて出発し、到着後は波上宮を訪れました。全員で正式参拝を行い、官司の方から波上宮の歴史や伊勢神宮・熊野とのつながり、沖縄の地形と文化の関係についてお話を伺いました。また、沖縄方言には大和言葉を起源とする語が多く含まれることや、母音体系の特徴など、言語文化の多様性と共通性について学ぶことができました。その後はアメリカンビレッジで昼食をとり、恩納村の宿泊先に移動しました。夕方には近くのビーチで活動し、交流を深める時間となりました。

25日は古宇利島のティーンズ浜を訪れ、自然が生み出した景観や沖縄の海の美しさに触れました。続いてジャングリアを訪れ、雨天の中でも協力しながら活動に参加しました。施設全体に統一された世界観や観光文化の工夫に触れ、学びの多い時間となりました。夕方には那覇市内で沖縄料理を味わい、地域の食文化への理解を深めました。

最終日の26日は国際通りを自由散策し、地域ならではの店舗や工芸品に触れました。シーサーの絵付け体験を行う学生もおり、伝統文化への理解を深める機会となりました。その後、おきなわワールドを訪れ、県内最大の鍾乳洞である玉泉洞を見学しました。約30万年の歳月をかけて形成された鍾乳洞の美しさに触れ、自然の営みの大きさを実感しました。また、機織り体験では「いつ(五)の世(四)までも末永く」という意味をもつミンサー柄の小物を制作し、沖縄の文化を学ぶ貴重な体験となりました。

今回の沖縄でのフィールドワークを通して、言語文化の背景にある歴史や風土を体感的に学ぶことができました。宿泊行事における引率の視点や、地域文化への理解の重要性を再確認し、今後の教育実習や授業づくりに生かしていきたいと感じています。

<足立 彩恵>

沖縄の文化に触れる、結束力を持って楽しく学修する、遊ぶ。帰ってきてからもその話題で持ち切り。とても有意義で思い出に残る、フィールドワークができました。

<担当教員 中條敦仁>



